

みなみいせ 2014



31号

2014.11.1

議会だより



みんながんばれ!

(南勢小学校)

主な
内容

平成26年 第3回	
9月定例会	2～3
一般質問	4～15
議員行政視察レポート	16～17
みんなのつぶやき	18～19
みんなでやっとなるで～ほか	20

平成26年 第3回定例会

議案

9月9日から12日の4日間の日程で、第3回定例会が開催され、26年度補正予算案7件、条例の制定、改正案8件、財産の取得について1件、工事請負契約の締結1件、同意6件、請願6件が上程され、いずれも可決および委員会付託となりました。平成25年度一般会計歳入歳出決算をはじめとする9件の決算認定は各常任委員会に付託されました。また、一般質問では12人の議員が壇上にて質問しました。

●平成26年度南伊勢町一般会計補正予算(第3号)
全員賛成

●平成26年度南伊勢町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)
全員賛成

●平成26年度南伊勢町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)
全員賛成

●平成26年度南伊勢町戸別合併処理浄化槽事業特別会計補正予算(第1号)
全員賛成

●平成26年度南伊勢町下水道事業特別会計補正予算(第2号)
全員賛成

●平成26年度南伊勢町一般会計補正予算(第4号)
全員賛成

●南伊勢町家庭的保育事業等の施設及び運営に関する基準を定める条例
全員賛成

●南伊勢町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例
全員賛成

●南伊勢町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例
全員賛成

●南伊勢町福祉医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例
全員賛成

●南伊勢町営バス条例の一部を改正する条例
全員賛成

●南伊勢町デマンドバス条例の一部を改正する条例
全員賛成

●南伊勢町学校施設の開放に関する条例の一部を改正する条例
全員賛成

●南伊勢町社会体育施設条例の一部を改正する条例
全員賛成

●財産の取得について
全員賛成

●工事請負契約の締結について
全員賛成

同意

●固定資産評価審査委員会委員の選任について(第2号)(第7号)
全員賛成

請願

●義務教育費国庫負担制度の存続と更なる充実を求める請願書(第2号)
全員賛成

●「教職員定数改善計画」の着実な実施と教育予算拡充を求める請願書(第3号)
全員賛成

●保護者負担の軽減と就学・修学支援に関わる制度の拡充を求める請願書(第4号)
全員賛成

●防災対策の見直しをはじめとした総合的な学校安全対策の充実を求める請願書(第5号)
全員賛成

●手話言語法(仮称)制定を求める意見書の提出を求める請願書(第6号)
全員賛成

●集団的自衛権行使を容認した閣議決定の取り下げを求める意見書の提出を求める請願書(第7号)
委員会付託

発議

●義務教育費国庫負担制度の存続と更なる充実を求める意見書

●「教職員定数改善計画」の着実な実施と教育予算拡充を求める意見書

●保護者負担の軽減と就学・修学支援に関わる制度の拡充を求める意見書

●防災対策の見直しをはじめとした総合的な学校安全対策の充実を求める意見書

●手話言語法(仮称)制定を求める意見書
全員賛成

報告

●健全化判断比率について
●資金不足比率について

平成25年度決算 常任委員会付託

一般会計補正予算の主な内容

歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ3億4,668万2,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を96億8,508万9,000円とすることを可決。

おもな内容

- ▶平成25年度南伊勢町一般会計歳入歳出決算
- ▶平成25年度南伊勢町国民健康保険特別会計歳入歳出決算
- ▶平成25年度南伊勢町介護保険特別会計歳入歳出決算
- ▶平成25年度南伊勢町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算
- ▶平成25年度南伊勢町戸別合併処理浄化槽事業特別会計歳入歳出決算
- ▶平成25年度南伊勢町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算
- ▶平成25年度南伊勢町下水道事業特別会計歳入歳出決算
- ▶平成25年度南伊勢町病院事業会計決算
- ▶平成25年度南伊勢町上水道事業会計決算



総務費

- ▶南伊勢町バイオマス産業都市構想計画書策定業務委託料
- ▶南伊勢高校SBP事業補助金
- ▶ネットワーク増設業務委託料
- ▶社会保障・税番号制度システム整備業務委託料

民生費

- ▶障害者地域生活相談支援事業委託料
- ▶民間老人福祉施設整備補助金
- ▶保育所施設整備工事費
- ▶統合保育所建設工事費
- ▶上下水道加入分担金
- ▶閉園記念行事補助金
- ▶南島保育所
- ▶さざなみ園

土木費

- ▶下水道事業特別会計繰出金

消防費

- ▶水源調査業務委託料
- ▶再生可能エネルギー施設整備関係委託料
- ▶三重県総合防災訓練負担金

教育費

- ▶学校施設整備工事費（小学校）
- ▶学校施設整備工事費（中学校）
- ▶クラブ遠征活動補助金
- ▶南伊勢町久々野交流事業補助金
- ▶神前中央公民館改修工事費
- ▶南伊勢野球クラブ全国大会出場補助金
- ▶災害復旧費
- ▶公共土木施設災害復旧工事費
- ▶農林水産業施設災害復旧工事費



まちを元気に！（SBP）

衛生費

- ▶住民情報システム意向調査データ作成業務委託料
- ▶予防接種委託料

農林水産業費

- ▶農地台帳システム改修業務委託料
- ▶被災農業者向け経営体育成支援事業補助金
- ▶林道等維持管理委託料
- ▶産業基盤整備事業補助金
- ▶漁港維持管理委託料



東海優勝・全国ベスト16!!



山本芳隆 議員

異常気象による災害対策は

非常体制で臨む 町長



防災訓練の様子

問 豪雨・高波等による土砂崩れ・浸水などの災害対策は。

答 町長 町全域にわたって風水害や地震などにより、甚大な被害が予想される、もしくは発生した場合や、津波警報・大津波警報が発令された場合には、両庁舎に全職員を参集させ、非常体制をとり災害に対応する。

問 緊急時に要援護者の避難所に指定されている、『特別養護老人ホーム柑洋苑』の生活必需品の保管予定は。

答 町長 昨年2月に緊急受け入れに関する協定を締結した。協定では、可能な範囲で受け入れること、期間は原則30日以内といったことなどを定めている。また、要援護者に必要な生活用品等の備蓄については、今後協議を行う。

問 平成26年度に建設が予定されている、介護老人福祉施設60床、地域密着型老人福祉施設29床の整備の進捗状況は。

答 町長 介護老人福祉施設は、広域型・地域密着型のいずれの事業者も、県から社会福祉法人の認可を受け、現在、施設整備に向けた準備を進めている。

整備の進捗状況は

進んでいる

町長



急がれる老人福祉施設の整備

その他の質問

● 地域活性化について



岡本 眞 議員

福祉施策の課題と体策は

しっかり進めていく 町長

問 福祉施策の現時点における課題と対策は。

答 町長 児童や高齢者、障がい者など福祉的支援を必要とする方に対して必要な支援がなされているのかどうかを客観的に判断すること、また支援する体制やサービスの質・量はどうかについているかということを中心に把握し、評価することが課題としてあげられる。そして、その解消のための仕組みづくりが大切だと考えている。福祉課題は、地域課題そのものであると考えており、「絆プラン」の安全・安心のまちづくりを目指し、しっかりと進めたいと思っている。



備えが大事

防災対策は

万全を期す 町長

問 防災対策は、「これだけ準備したから、もう安心。」ということとはない。防災対策において、最優先順位と課題は。

答 防災対策は人命に関することが最優先とされている。地震・津波対策以外にも、さまざまな自然災害への対策が必要になっている。災害時の初動対応も重要だが、事前防災・減災対策をしっかりと進めていくことが、課題となっている。

通学バスの改善は

解消していく 町長

問 毎朝大混雑している南島地域の伊勢方面への通学バスの改善見通しは。

答 これまでいくつかの案について三重交通と協議を重ね、現在運行している31席のバスから、新たに48〜50席の低床の新型車両を来年4月から運行すること

- 教育について
- 活性化について



混雑が解消



倉田 育 議員

今後の行政体制は

改善・改革に取り組む 町長

問 当町が誕生して来年度で10年の節目を迎えようとしている。ひとつの町となったことで生まれるさまざまなメリット・デメリットが合併時からあると考えるが、多くの町民が関心を持つ現在の分庁方式を、今後どのようにするのか。

答 町長 行政体制には、「本庁方式」、「分庁方式」、「総合支所方式」などがあり、それぞれにメリット・デメリットがある。当町では合併の際、2町での合併であること、地形的なことなども考え、合併協議の中で総合的に議論がなされたうえで、分庁方式が採用された。

現時点では、分庁方式を継続することが大切だと考える。しかし、行政体制のあり方については、今後の町内の動向も踏まえ検討していく課題のひとつであり、住民の方々の負担を強いることの無いよう、町民サービスの向上も含め業務の改善・改革に取り組んでいく。



南島庁舎・南勢庁舎



中高一貫教育の南勢中

学校教育の具体的方策は

推進会議で協議 教育長

問 南勢中学校では、南伊勢高校南勢校舎との中高一貫教育が継続中であるが、教育委員会ではこの現状をどのように捉えているか。また今後の継続は。

答 教育長 長年続けてきた中高一貫教育は、一定の成果が上がっているが、南伊勢高校南勢校舎とPTA、県教育委員会、町教育委員会、小・中学校で構成する『中高一貫教育推進会議』の中で、これまでの教育の検証を行い、発展的な視点で、新たなシステム導入の検討に入ると聞いている。今後は、町教育委員会としても推進会議の中で意見を述べていく。



手塚征男 議員

今後の見通しは

協議を続けている 町長



急げ高台移転

問 『特別養護老人ホーム真砂寮』の高台移転と増床の見通しは。

答 町長 本年4月から施設組合と担当課(医療保険課)において検討を行ってきた。8月に開催された管理者・副管理者会議では、高台移転と増床について合意となった。今後、組合議会での決定も必要なことから、費用に対する負担割合や発注方法など管理者・副管理者会議で協議を続けていくことになっている。

集客の方策は

魅力を発信 町長

問 当町の特徴・良さを活かした集客の方策は。

答 町長 町の約6割が伊勢志摩国立公園に属している。すばらしい自然環境をはじめ海山の豊富な地域資源を生かしたまちづくりを進め、原発を止めた町であることもアピールしながら、安心していつまでも暮らし続けることのできるまち、行ってみたくなる魅力のあるまちを町民の皆さんとともに創り、町内外に発信していくことが大切と考えている。



おいないさ南伊勢

その他の質問

- 通学バスの改善について
- 二次避難所問題について
- 一次避難場所の安全確保について
- ボランティアの事故について



松葉和久 議員

配水池の破損は

損傷の可能性がある 町長



美味しい水の配給を

問 簡易水道・上水道の配水池と水源地の地震・津波対策について、配水池が破損することはないのか。耐震補強は、どの箇所を重点に補強するのか。また、水源地の災害復旧計画は。

答 町長 町内に配水池は19か所設けてあり、耐震設計がされている配水池は5か所、残り14か所については非耐震および耐震診断が必要な配水池となっている。それぞれの施設の耐震

診断を行い、補強が必要な箇所を評価し補強方法を決定する事としている。災害復旧計画について、基本方針に対応する整備計画として、災害に強い水道施設の整備を図り、緊急時における供給体制の確保を推進するとしているが、今後、水道ビジョンの再点検を行い地震対策についてより充実させた計画とするよう見直しを図る。



期待の大きい振興作物（キャベツ・青ネギ）



振興作物の今後は

普及拡大を図る 水産農林課長

問 振興作物であるキャベツ・薬用生姜・ネギの近況と今後の計画は。

答 水産農林課長 キャベツ栽培は、試験栽培を行った結果、収益性も確認され継続して栽培を行っている。薬用生姜については、

青ネギ栽培については、

製薬会社から話があり、試験栽培を行ったが、その結果、計画の3分の1程度しか収穫できず、害虫の防除ができなかったことが収穫の要因だった。製薬会社と県が協議し、当町での薬用生姜栽培については断念することとなった。

青ネギ栽培については、

その他の質問

● 無人ヘリによる農薬散布について

昨年度より試験栽培をした結果、順調に生育し、大雪の影響もほとんどなかった。
収穫量は1,041.9kg（5アール）販売単価はキロ500円となった。



山本周也 議員

記念行事開催は

委員会を立ち上げる 町長

問 来年の合併10周年に向けてならかの町行事の企画は。合併の効果がどれだけ発揮されたか検証し、公表しては。

また、合併成果を町民に還元できないか検討を。

答 町長 町行事などの実施について、合併の効果を含め、これまでを振り返り、今後を展望する機会であると捉え、総合計画である「絆プラン」の見直しの中で

も検討を考えている。また、合併10周年に関

わる町行事の実施について、町全体で町民の皆様と共に取り組みたいと考えている。

現在、町広報誌などで、委員を募集し、事業実施にあたり、財源も含め検討していく。



来年合併 10周年

問 議員視察研修にて34.4mの最大津波高が推計された高知県黒潮町を訪問。黒潮町では犠牲者ゼロ発信に欠かせないプロセスとして「世帯別津波避難カルテ」を作成している。

当町においても、このことを参考にしては。

答 町長 避難行動支援者名簿の作成及び日常の支援への活用を

目指して、住民情報に住居や津波浸水区域などを確認できる地図情報も加味した住民情報統合システム整備事業に取り組んでいる。

防災の先進地である黒潮町の事業を参考に、町もしっかりと防災対策に

カルテの作成は

整備事業を進めている 町長

取り組んでいきたいと考えている。

その他の質問

- 人口減対策について
- 生活支援サービスの体制整備事業について
- 小中一貫教育について
- 障害者優先調達法について



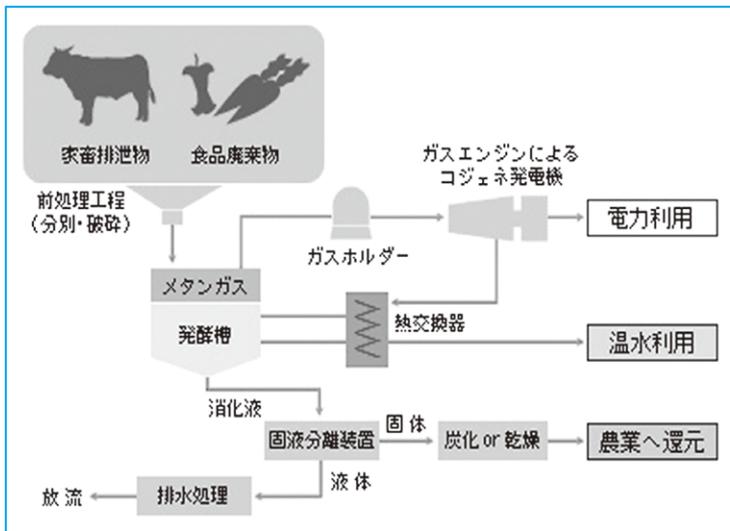
議員視察先（黒潮町）



田中喜一郎 議員

バイオマス事業は

導入可能性調査を検討 町長



期待の新エネルギー

問

バイオマス発電のなかで、メタン発電は当町に最適な発電事業で、売電収入だけでなく関連事業、今後の展開が期待できる事業と考えている。

9月に開催された知事との対談にもあったが、メタン発電の排熱利用についての計画とは。また、非常時（大地震による被災後）のメタン発電施設等の活用予定は。

答

町長 発電事業としては、町内にあ

るバイオマス資源を原料としたメタン発電を行い、発電全量を国の固定価格買取制度を活用した売電事業を行う予定。

また、発生した排熱を活用し、温室栽培等への活用を図るほか、アミノ酸肥料の製品開発と販売を計画し、新規農業者の創出と農業漁業振興を図っていききたいと考えている。

高齢者の見守りは

地域に期待 町長



いつまでも笑顔で

問

住民の高齢化が進む中、住民同士の手助け合いによる見守りが求められている。住民と行政が連携した、高齢者見守り体制の構築について、当町が考える課題・今後の進め方は。

答

町長 秋より商工会から作成された事業案を、行政とともに検討していくスケジュールと聞いている。事業実施にあたっては、民間と行政が一緒になって進めていききたいと考えている。



澤村圭也 議員

雨天の場合は

順延・延期はしない 町長

問

町民体育祭は地域間の大事な交流の場だと思つ。当日が雨で中止の場合や、区の対抗競技内容はどのように計画しているか。

答

町長 雨天による順延・延期となるとグラウンドの利用の確保ができない、各種対抗競技において、出場者確保が難しいなどといった理由により、雨等で実施できない場合は、今年度の町民体育祭は中止とし、順延・延期はしないこととする。

とする。

区対抗競技の内容は、綱引き、大縄跳び、リレーの三種目。今年の地区対抗競技は、旧町村単位で6つの地区に分かれ、順位によりそれぞれ得点をつけていくことを考えている。

【地区対抗6地区】

- 五ヶ所・神津佐地区
- 穂原地区
- 南海地区
- 宿田曾地区
- 鵜倉・中島地区
- 吉津・島津地区



ひとつになって頑張る

問

町所有のマイクロバスは、町内の行事などで住民が利用する場が多く、2つの庁舎に一台ずつ置くべきではないか。

答

管財営繕課長 当

町が所有しているマイクロバスは1台であり、南島庁舎にて保管している。購入時の平成5年より21年経過しているが、今後も適切に維持管理を行い運行していく。また、利用状況として、平成25年度で各種団体

マイクロバスの増台は

一台でも十分 管財営繕課長

128回2,245名が利用しているが、事前に予約状況を知ることにより南勢・南島両地区での住民の利用に支障のないよう配置している。人数が多い場合でも町所有のスクールバスと併用し支障なく運行している。



町のマイクロバス

海の環境対策は

みえ森と緑の県民税で 町長



掛橋 靖 議員



過酷な流木撤去

問

今後の風水害対策について、減災につながる歯止め策をどのように講じるのか。また県の補助制度を利用した対策は。

答

町長 現在、当町が県との間で結んでいる契約は、「港湾施設維持補修事業委託」で、内容は海岸の美化清掃・

環境整備であり、他の港湾の契約内容とは異なるものと思われる。

今後はこの契約を実情に即した内容のものに変えていくよう、県当局と協議を行っていく。

河川上流域の倒木の除去や堆積土砂の撤去については、「みえ森と緑の県民税」の県施工分での対応を要望している。

また、町としても、町管理漁港に陸揚げされた漂着ゴミの処分費用を予算化していくこととする。

減災対策は

住民への周知など 町長

問

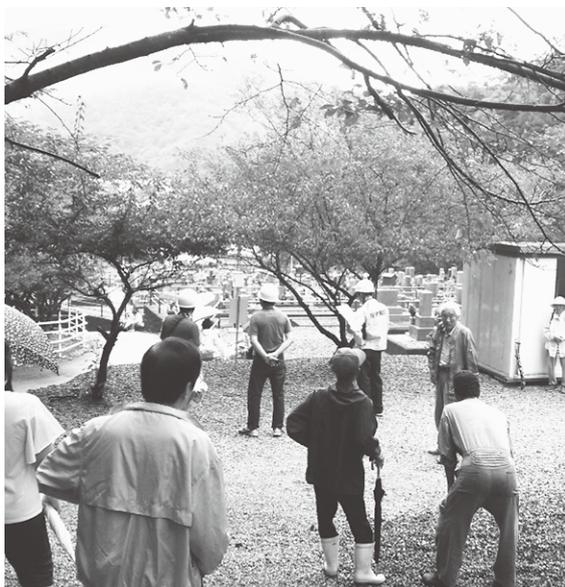
洪水・土砂災害対策について人的被害を最小限に抑えるため、これまでどのような準備・計画を実践してきたか。また、今後考えられる減災対策は。

答

町長 砂防ダムの建設や河川改修工事、堆積土砂の撤去による河川通水断面の確保、

急傾斜地崩壊対策事業などを実施しているが、これらのハード面の整備には、予算が伴うこともあり、整備の進捗が図りにくいのが現状。ソフト面としては、土砂災害ガイドブックやマップで啓発を行っている。

また、平成27年度より、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策



今年の避難訓練

の推進に関する法律」に基づき、県において急傾斜地崩壊危険箇所、土石流危険渓流の全箇所の基礎調査を5か年計画で実施することとしている。さらに今後の減災対策として、警戒避難の住民への周知などに取り組んでいく。

一元化は

連携で考える 町長

移転候補地は

孤立することは少ない 町長

問 当町の地域包括ケアシステムと保・

医・介の一元化の計画について、老健施設が地域包括ケアの中で果たす役割は。また、医療と介護の連携・一元化において、どの介護施設が医療との連携役になるのか。

答 町長 老健施設は病院から自宅に戻るためのリハビリなどを行う施設であり、在宅復帰のために大切な施設である。

介護施設と医療との連携は、老健施設だけでなく、すべての介護施設を医療との連携で考えていくことが大切であり、そのことが地域包括ケアの基盤になっていくものと考えてる。

また、新しい町立病院の機能として「地域包括ケア病床」についても検討している。

地域包括ケアシステムにおいては医療と介護が連携してその人を支えることが必要であるので、地域包括支援センターや病院の地域連携室のような機能の充実も必要である。



岡田和夫 議員



サニロード

問 町立病院の移転候補地について震災の際に「想定外にならないようにすることが大切」と言ってきた。また「孤立することは絶対に避けねばならない」とも言われた。しかしサニロードの高台に造ればさ

まざまな災害が発生し孤立することが予想されるが。

ある。

この道路沿いには、県により※道路啓開等のための基地の整備も実施中となっていることから、災害が発生すれば優先的に※道路啓開を行うこととなる。

これらのことから、孤立することの少ない候補地であると考えてる。

※道路啓開とは：

被災により道路がガレキなどでふさがってしまった時、そのガレキを取り除いたり、簡易な段差修正をしたりして最低限のルートを確認すること。

答 町長 造成工事については都市計画法に基づく許可基準により設計を行い、県の許可により造成を行う。

また、サニロードについては、拠点と拠点を結ぶ第二次緊急輸送道路となっており、災害時に優先的に使用する道路で

その他の質問

● 別在地の水問題と町の活性化について



中山 盛 議員

関連施設の併設は

具体的な協議を行う 町長

問 町立病院高台移転について、病院外の関連施設の併設は考えているのか。また、病院の経営対策は。

答 町長 病院としての従来のな機能に加えて町民の健康づくりや在宅支援、介護・福祉サービスなどの連携のために調整を行う機能や、町民の相談を受ける機能、また防災拠点施設としての機能も必要であると考える。

病院の経営対策については、本年度に民間コンサルタント事業者と契約を結び、病院新築移転に向けて、当町の将来の人

口動態や受療動向、またこの地域の医療事情等を総合的に調査するとともに、経営的な側面からも分析を加え、新築高台移転後の経営計画策定の準備を進めている。

今後、これらの結果も踏まえ、建設の条件が整ってきたところで病院及び役場関係課で調整しながら経営対策をする。



必要な防災拠点へ



万全な体制を

町内関連業者と

検討する 町長

問 地震・津波・風水害の緊急時における協定書を町内関連業者と締結しては。

答 町長 災害時における協定は、災害後に迅速な応急対策や支援を得られる体制を確保することを目的に協定を推進している。

現時点で、26の協定を締結し、応援の協定が14、

支援の協定が12となっている。大規模な災害が発生した場合を想定して、ほとんどが町外の関係団体との協定となっており、

町内のみ関係団体は4つの協定となっている。

町内関連業者については、被災することも検討し、協力可能な業者を災害協力団体として今後協定締結可能かについて検討をしていく。



東 伊久雄 議員

戦略の見直しは

集落ぐるみで 町長

問

最近人家近くへの獣の出没が増え、販売農家より家庭菜園に多くの被害が目立っている。この様な事実を踏まえた戦略的な見直しは。

答

町長 当町においても高齢化や人口減少等により、人家近くの耕作地や放任果樹が増加しており、有害獣にとって「魅力的な餌場」となっている。



敵もサルもの

そこで、町では、「人里や里山に有害獣を近づかせない」をテーマに集落単位での獣害研修を行っており、本年度もすでに9集落で実施した。ここで学んだ「餌場を作らない」ことや「正しい払い方法」を集落ぐるみで実践していただくことが重要と考える。

また、獣害対策の一環として、被害に苦しんでおられる方が、自らが有

害獣を捕獲するよう、狩猟免許助成に加え捕獲檻の購入補助も行っている。この制度を利用して里山・人里に出没する有害獣を捕獲していただきたい。

土石流対策は

県民税の有効活用を 町長

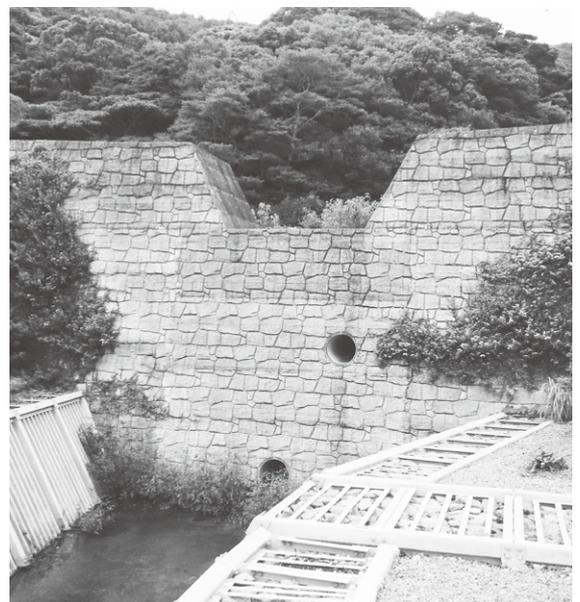
問

本年4月より「みえ森と緑の県民税」が導入され当町でも竹林整備の実施を予定している。これは市町による取り組み例の災害に強い森林づくりの一部であるが、次年度に向け当町としても土石流の防災等を踏まえた事業に取り組んでいく考えは。

答

町長 今年度、町事業では県民税市町交付金を活用し放置竹林の伐採整備を予定している。

来年度以降の用途については、現時点で決まっていない。みえ森と緑の県民税は、県が実施する「土砂や流木を出さない森林づくり」や町が実施



安心を

する「暮らしに身近な森林づくり」また、双方が実施可能な「森を育む人づくり」や「木の薫る空間づくり」などさまざまな用途に活用できる。今回の台風11号による漁港・港湾への被害も踏まえた上で、県事業と町事業の色分けをしつかり行い、また、その他の用途も検討するなかで、県民税の有効活用を図っていきたいと考える。

その他の質問

●閉校となった学校施設の活用について

視察レポート

四国方面

「産業の活性化」・「防災のまちづくり」・「議会活性化」

7月22日から24日までの3日間、「産業の活性化」・「防災のまちづくり」・「議会の活性化」をテーマに愛媛県・高知県を視察訪問しました。

道の駅 内子フレッシュパーク

からり

町内の約6割が伊勢志摩国立公園に属し、県下一の漁獲高を誇る新鮮な海の幸やマダイやマグロの養殖、県下一の生産量といわれるヒオウギ貝、高品質の温州みかんに代表される柑橘類など、海や山の幸に恵まれた当町にとって、直販施設は待望のものです。農林水産



道の駅 からり

分野で先進的かつユニークな活動を行っている、愛媛県内子町「内子フレッシュパークからり」を視察しました。内子町は人口約17,000人の、典型的な中山間地域で、農林業が主たる産業の町です。中山間地域で大規模農業ができず、農業従事者の高齢化などの問題を抱えています。「内子フレッシュパークからり」では、販売品はすべて町内産にこだわり、多品目かつ、オンリーワンを目指しながら、農業でも儲かる仕組みを創り上げてきました。その結果、当初4,000万だった売り上げは、立ち上げから15年目の今では7億になり、年間60万人が訪れるそうです。そこでの視察を終えて、一次産業に従事する方の所得を向上させる可能性を感じました。

黒潮町にて

高知県黒潮町は、人口約12,500人の町で、南海トラフ地震による最悪被害想定では、最大震度「7」の揺れが2〜3分継続し、津波到達(1m)時間8分、最大津波高34.4m、人的被害2,300人、1日後の避難者数10,000人、町内61集落の内40集落が津波被害の可能性ありと、防災上大変厳しい数字が示された町です。あくまで最悪数値ではありませんが、町の存続すら危ぶまれるような結果をうけ、「避難放棄者」を出さないといった基本思想の下「あきらめない、揺れたら逃げる、より速く、より安全なところへ」犠牲者ゼロのまちを「スローガン」に「防災・減災対策」を進めているそうです。黒潮町が作成している、「戸別避難カルテ」は当町でも活用できると思いました。また、町職員を町内61集落に配置することで、地域の課題を細分化し、具体的な対策に反映している取り組みなど、学ぶことが多くありました。

中土佐町にて

高知県中土佐町は、「海のみち」中土佐町と「山のむら」大野見村が合併し誕生した、人口約7,600人の町です。町の特徴としては、「海のみち」中土佐地区は、土佐の一本釣りである「鱈」に代表される漁業や温暖な気候を生かしたハウス園芸が盛んで、町100%出資の宿泊施設を備えた『黒潮本陣』や、地域の台所『大正市場』や久礼八幡宮等の観光資源があり、年間35万人が訪れる、商業の中心地でもあります。「山のむら」大野見地区は、四万十川の源流域であり、米やヒノキ、花木、畜産などの一次産業が中心です。中土佐町は、最大クラス地震・津波に対応しうる各種施設の整備を最大の行政課題として取り組んでおり、その中でも海岸部、久礼地区に建設された、津波からの避難困難地区を解消するための避難タワーを視察しました。このタワーは400人を収容した上で最大級の揺れや津波にも耐えられる構造となっており、スロープや階段、ゴンド



中土佐町の防災タワー

ラや、近くの商業施設駐車場からの接続路などを備え、多様な避難行動がとれるタワーでした。人命を守るという観点から、参考になる施設でした。また、防災対策だけでなく、地域の基幹産業である漁業を基盤とし、「地元の幸」の商品化により、活性化につながっている久礼大正市場も視察しました。さらに農業関係でも、施設利用型農業、土地利用型農業の成功事例も説明していただきました。防災だけでなく、一次産業が基幹産業の町での活性化のヒントがたくさんありました。

本山町にて

高知県本山町は県北部中央にあり、人口約4,000人の、農林業中心の町です。この町を視察したのは、当町議会も現在、議会改革に向けて動いています。本山町は議会が活発に動いているためです。さまざまな場面で、議員の資質が問われるなか、議会基本条例制定までのいきさつや課題等を聞かせていただき、あらためて、「全ては町民のため」といった、議員としての重責を感じました。また、本山町では若い人が議員となり、町のために活躍していただくためにも、議員報酬を上げたとお聞きしました。各市町において、財政事情、議員報酬に対する考えはさまざまでしょう。しかしさまざまな世代の意見を、町政に反映させようとする取り組みは、見習うべきものがありました。



議会改革先進地

議員行政

東北方面

「自立のまちづくり」・「保健・医療・福祉・介護の一元化」・「保健・医療・福祉を一体化した施設」

7月23日から25日まで、新潟県・山形県を回り、新潟県の関川村では「自立のまちづくり」について、山形県の小国町では「保健・医療・福祉・介護の一元化」について、最上町では「保健・医療・福祉を一体化した施設」について視察してきました。

自立に向けたむらづくりのために

視察初日、仙台空港より173キロ車で移動し、新潟県は山間の中にある関川村役場を訪れました。

関川村は「平成の大合併」のなかで、近隣の市町と合併をせず、村として自立の道を選びました。合併した当町とは立ち位置こそ違いますが、「自立のまちづくり」として住民主体のまちづくりの工夫は、参考にしたい点がとても多い町です。

山間の村のため、当町と同じく少子高齢化問題は深刻となっています。高齢化による地域の行事が縮小・中止することをいち早く問題視し、村外より多くのボランティアを募集する事業を拡大させました。

毎年、社会人や近隣の大学から数百人という学生をボランティアとして呼び込み、地域の除草作業から、まつり行事まで様々なことを手伝ってもらっています。

役場で話を聞かせていただいた副村長は「小さくてもキラリと光る村づくりを目指し、どんなことでも職員全員が全力で取り組んでいる」と胸をはって説明してくれました。職員の給与も地域で最低設定ですが、住民の満足度を最高にするた

め、住民との関わりを重視しているとのこと。

また村内をさらに旧村単位でわけ、各地区での状況や要望を細かい部分まで職員に聞き取りさせて、行政と情報交換を怠らないことが大事だと話されていました。

実際に、村の説明を受けた後、私たち議員が質問した内容についても、ほぼ即答で数字や状況、考え等を回答する副町長には驚かされ、行政の向上意欲を感じました。



自立のまちづくり（関川村）

包括ケアシステムの構築に成果をあげる町

視察2日目の小国町では、地域包括ケアシステムの構築に向けた県内の自治体病院の役割について、同町立病院で話を聞きました。

人口減少と高齢化が予想を上回る速度で進行している中、住民が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる社会の実現を目指し、自治体病院の機能強化・連携の在り方等を考える小国町では、近年注目されている保健・医療・福祉等の施設一元化をいち早く取り入れています。

病院、健康管理センター、老人保健施設、特別養護老人ホーム、老人福祉センターを一か所に集め、「地域包括ケアシステム」を構築。また在宅高齢者の支援充実診療機能を生かし、人間ドックなどの予防医学面も充実させ、町民一人ひとりの健康管理を病院が積極的にサポートしています。一か所に関連施設をま

とめることで、切れ目のないケア（シームレスケア）連携が密に取れ、経営の効率化にも役立っているといえます。現在は経常黒字化を目指し、毎年目標達成に向けて職員一丸で頑張っていました。また眼科、耳鼻咽喉科、歯科を25年度より新たに開設したのは、町民のニーズに合わせ、病院の利用率をさらに上げるためだということです。

全国的な医師不足の中、町立として病院規模を縮小せず生かすためには、多くの努力と知恵を出し合うことが必要不可欠であると感じた小国町立病院でした。



一元化先進地（小国町）

町民の笑顔と健康を実現するための病院

最終日の最上町でも、保健・医療・福祉・介護の一元化を重視し、小国町同様に地域包括ケアシステム構築に精を出していました。特に町民の健康意識づくりに町をあげて取り組み、福祉センターには本格的なフィットネスルームを完備し、また同複合施設内には多目的ルームや温泉施設まであり、地域住民の憩いの場としても利用されていました。

当町において新設が計画されている町立病院に関しても、町民の生命を守ることを第一に、お年寄りから小さな子どもまで幅広い方の健康をサポートできる施設が必要だと強く感じた視察でした。



最上町

つぶやき

■新しい友達(^^)

今年から小学生の子どもが南勢小学校へ通学することになり、毎日バスに乗って通っています。他の地域の同級生とはすぐお友達になれたようなので安心してはいますが、閉校した近所の小学校で遊べなくなるなどの不満もあります。

私自身も通った母校がなくなったのは寂しいことですが、親となった今では子どもたちには色々な子に揉まれて強く大きくなって欲しいと願っています。

(30代女性)

■母と二人で…

防災対策についてあれこれ語られています、災害弱者の要援護者対策についてはあまり議論されていない様に感じます。

地震が起こったら、私一人で寝たきりの母を連れて避難することは無理だと思います。またその時、母を置き去りにして私一人だけ逃げることも出来ません。周りの人を危険にさらしてまで助かりたいとは思いませんが、今、津波警報が出たらと考えると不安でなりません。

(50代女性)

■どこが安全か…

最近、集中豪雨の発生が増え、どこに避難したらいいものか考えてしまう。地震・津波と違って山の避難所へ行くことはできないし、地区によっては公民館も安全とはいえない。人的被害を最小限に抑えるため避難経路も含めて安全確保できる場所を用意してもらいたい。

(70代男性)

あなたも つぶやきませんか？

どんなことでも大丈夫です
(^^) /

みんなでつぶやきましょう。

思ったこと、感じてることを
200字程度でつぶやいて下さい。
※ハガキがFAXで送って下さいね。

〒516-0194

南伊勢町五ヶ所浦3057

議会事務局 宛

FAX 0599-66-2164

みんなの

■自慢のわがまち

我が家の窓から見える朝日、すごいステキなんです。向こう岸の集落から見える夕日もきっとキレイなんでしょうね。

町中の朝日のキレイな所とか教えてもらって見てまわりたいものです。そして他町の人に自慢したいな。車で何時間もかけて走らなくっても、身近にこーんなキレイな所がいっぱいあるんだよ～エヘンってね。誰か私の代わりに写真を撮ってください。

(30代女性)

■漁師の町なのに…

うちの子ども（小学生）は海が大好きで、休みには市場や船着き場で、釣りや網で友だちと遊んでいます。でも最近はどうも行ってないみたいで、当然ですが、学校では駄目と言われているんで、他の友だちから注意や告げ口されるらしいです。地元の漁師さんは、「気を付けなよ！落ちたら何かにつかまれ！声出すんやぞ！」とか、いろいろ話しかけてくれるそうです。もっと自由に遊ばせたいです（^^）

(30代女性)

■ほんとうに怖いんやけど…

「さあーっ」っていう時が怖いんさ！大津波がきたらこの神前は逃げるところが遠いんさ。墓（※神前霊園）までよう逃げんわな。ほんで神前の避難場所は、各組長さんや消防団、地元の議員さんも出会で出てくれて、ええように整備してくれとるけど、私ら年寄りにはよう上りません。コンクリートで階段と鉄の手すり付けてもらわなあかんわ。ほんで、役場（※南島庁舎）の前の山に階段付けてくれやなあかんさ！

(70代女性)



みんなでやっとなで～

町内のがんばっている人を紹介します！



南島WESTミニバスケットボールスポーツ少年団

設立 2000年 団員数 12名

【主な活動】 練習／週3回
 火・金 午後7時～午後9時
 南島体育センター（村山）
 木 午後7時～午後9時
 南島東小学校体育館（東宮）

※試合日に合わせて練習日が多くなる時があります

試合／年間予定 選抜大会・東海大会・三重県交歓大会・全国大会
 練習試合

南島地区で4つあったミニバスケットチームも、子どもたちの減少と小学校の合併で、現在の1チームだけになってしまいました。南島西小学校と南島東小学校の子どもたちが、一緒になって練習に頑張っています。ミニバスケットのモットーは、友情・ほほえみ・フェアプレイの精神によっておこなわれることにあります。指導者から競技のルールや約束ごとを学んでもらい、プレイヤーとして規律を正しく理解することによって、スポーツを通じて喜びや楽しさをおぼえてほしいと思っています。また、他チームとの交流で、たくさんの友だちと出会えることもスポーツならではの大きなメリットと思っています。私たちのチームは現在少人数ですが、みんなで仲良く練習に励んでいます。目標はみんなで頑張る、大会での上位入賞、県大会出場です。

【現在部員を大募集しています！】

1年生～6年生の女の子(^^)私たちと一緒にミニバスやりませんか！？
 楽しいですよ！見学大歓迎！待っています！

【連絡先】 長井文夫 090-2610-1508 中井みち代 090-7313-9420

募 集

議会だよりでは町のがんばり屋さんを募集しています。自薦他薦は問いません。
 ※下記の議会事務局まで

議会広報特別委員会

委員	副委員長	委員長
倉田 河村 東 掛橋 田中喜一郎	伊久雄 靖	

議長 上村 久仁

議会を傍聴しませんか

12月定例会が開催されます。
 開催は12月9日～12月16日の予定です。
 ぜひ傍聴してください。
 （当日、総務課で受付をしてください）



編集後記



朝晩の冷たさに、季節の移り変わりを感じるようになりました。恵まれた自然、四季のある日本の風景に感謝しつつ、今年も集中豪雨、台風、御嶽山の噴火等、自然が持つ脅威を目の当たりにしました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて、議会の使命は、住民の皆様の生命を守り、幸福になつていただくことだと思えます。私たちもそのことを胸に、これからも全力で活動します。

議会だよりについてのお問い合わせなどは、議会事務局までご連絡ください。

☎ 0599-661781
 ☎ 0599-2164
 FAX 0599-662164